

言葉への意識を高める言語活動の工夫

～俳句の創作を通して～

1 設定理由

現代社会の中で「生きる力」を子どもたちに育むためには、主体的・対話的な深い学びの視点が必要であり、その前提となるのが言語能力の育成である。これからの時代に求められる言語能力の中でも、発達段階に合わせて語彙を確実に習得すること、さらに情報を正確に理解し適切に表現する力を伸ばすことが、全ての教育活動を支える力となる。

しかし、本校の生徒は豊かな感性を持ちながらも、それを表現するための言語感覚や語彙が身についていない。

そこで、俳句の創作にとりくむことで、生徒の語彙を広げるとともに、言葉への意識を高めていきたいと考える。また、自分たちが創作した俳句を選評する句会を設定することで、楽しみながら豊かな語彙を身につけられると考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

仮説 1 俳句の創作や句会に親しむことで、日本語の豊かさに気づき、言葉に対する意識を高めることができるであろう。

仮説 2 日常的に俳句や季語にふれる環境を整えることで、語彙を広げることができるであろう。

3 研究内容

- ・学習計画にもとづいた、定期的な俳句の創作と句会の実施
- ・俳句や季語を身近に感じられる環境の整備

4 結 論

- ・俳句の創作を継続し、日常化したことで、自ら調べ推敲するという主体的な学びの姿勢が生まれ、日本語の豊かさに気づくことができた。
- ・句会を行ったことで、多くの生徒が自分の作品が認められたという喜びを味わうことができ、さらに表現を工夫したいという意識を持つことができた。
- ・多くの季語や表現、俳句と出会うことで、表現や言葉に興味を持ち、新たな語彙の獲得につながった。

1 研究主題 言葉への意識を高める言語活動の工夫 ～俳句の創作を通して～

2 主題設定の理由

(1) 身に付けさせたい力

急速に変化し拡大していく現代社会の中で「生きる力」を子どもたちに育むためには、主体的・対話的な深い学びの視点が必要だと言われている。全ての教科で「何のために学ぶのか」「何ができるようになるか」を明確化し、主体的・対話的に学習にとりくむことが求められる。その前提となるのが言語能力の育成である。これからの時代に求められる言語能力の中でも、発達段階に合わせて語彙を確実に習得すること、さらに情報を正確に理解し適切に表現する力を伸ばすことが、全ての教育活動を支える力となると考える。

現在、インターネットや携帯電話、スマートフォン等の普及に伴い、子どもたちのコミュニケーションも大きく変化している。コミュニケーションのツールとして無料メールアプリやSNSなどのソーシャルメディアを利用している生徒も多い。自分の考えを即座に発信でき、言葉のやりとりを単語や短文で簡単にできるため便利ではあるが、1つ1つの言葉を吟味して用いることは少ないように感じる。

また、本校の生徒は小・中学校と小規模校で過ごしており、幼いころから互いのことをよく知っている小さな集団の中で生活している。そのため、相手の気持ちや言いたいことを推測し、思いやりをもって接することのできる素直な生徒が多い。しかし、用いる言葉や伝え方を吟味しなくても自分の考えや言いたいことを理解してもらいやすい環境であるため、授業中や学校生活で用いる言葉に対する意識の低さを感じることが多い。豊かな感性を持ちながらも、それを表現するための言語感覚や語彙が身についていないことが残念である。そのためにも、よりよく表現したい、さらに工夫したいという意欲の持てる言語活動を設定する必要性を感じる。

そこで、今回は俳句の創作に繰り返しとりくむことで、生徒の語彙を広げるとともに、言葉への意識を高めていきたいと考えた。俳句には、定型や季語などの制約があるからこそ、吟味され選び抜かれた言葉が用いられる。俳句を創るためには、考え・感じ・想像する力とそれを表現する力が必要となる。また、日常的に俳句に触れ、たくさんの季語と出会うことは語彙の広がりにもつながるであろう。さらに、自分たちが創作した俳句を選評すること（句会）を言語活動として設定することで、楽しみながらたくさんの俳句に触れることができ、豊かな語彙を身に付ける一助となると考え、本主題を設定した。

(2) 主題に関わる生徒の実態（第3学年 男子27人 女子25人 計52人）

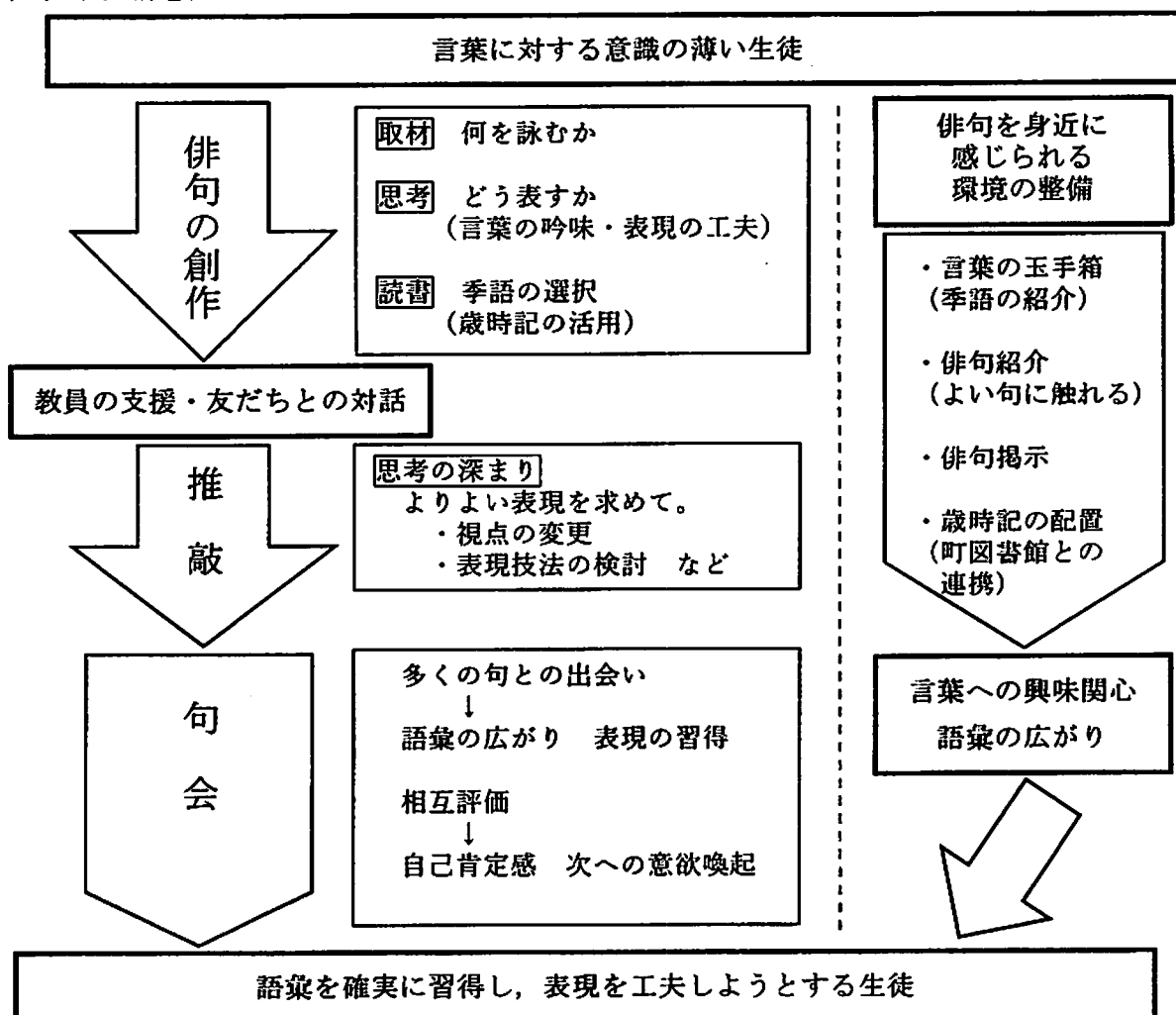
生徒は、中学1年から2年にかけて、詩や短歌、随筆等の創作に意欲的にとりくんでおり、お互いの作品を読みあうことも好んでいる。俳句についても、小学校中学年から国語の教科書で触れており、高学年では、修学旅行の思い出などを題材に、実際に有季定型の句を詠む経験もしている。しかし、中学2年時の12月に行った事前調査では、俳句の形式や季語が必要ということを知識として理解している生徒が多かったにもかかわらず、有季定型の俳句を創ることができた生徒は3割程度であった。さらに、俳句を仕上げることのできない生徒も11人と多かった。また、有季定型ではあっても「うれしい」「きれいだ」などの形容詞・形容動詞を安易に用いていたり、「ね」「よ」といった終助詞で音律を合わせていたりする句も見られた。【資料1】

事前調査 「小学校の学習を生かし、俳句を作りなさい（テーマ自由）」調査人数 52人
 ・有季定型の句が詠めた …… 16人 ・音律は整えることができた（無季） …… 3人
 ・季語を重ねて用いている …… 17人 ・音律が整わない（短歌・短文） …… 5人
 ・未回答 …… 11人

そのため、小学校の学習内容を確認するとともに、モデルを示しながら俳句作りのポイントを指導した。【資料2】学力の差も大きく、特別な教育的支援の必要な生徒もいる学年ではあるが、創作を楽しむことのできる雰囲気大切に、本研究では、毎月、俳句の創作にとりくむこととした。

語彙の乏しい生徒が多いことは、全国学力・学習状況調査の結果等にも表れており、中学3年であれば知っていた言葉について授業中に意味を質問されることの多さからもわかる。特に、自分の生活で直接使うことの少ない言葉についての意識が薄いように感じる。そこで、「言葉の玉手箱」として、季語を紹介する機会を増やすこととする。多くの季語に触れることで、生徒の中に眠る季節感をくすぐり、言葉への興味関心を高めたいと考える。

(3) 研究構想図



3 研究目標

俳句の創作や句会に繰り返しとりくむことで、確実な語彙の習得とともに、言語に対する意識を高め、表現を工夫しようとする力を育む。

4 研究仮説

仮説①

俳句の創作や句会に親しむことで、日本語の豊かさに気づき、言葉に対する意識を高めることができるであろう。

仮説②

日常的に俳句や季語に触れる環境を整えることで、語彙を広げることができるであろう。

5 研究内容

【俳句に関する学習計画 2017年度】

月	テーマ（時数）	身に付けさせたい力	生徒の活動	言葉への興味・ 関心を高める 環境の整備
4月	春の情景を詠む （国2）	・春の季語に関する知識を広げる。 ・俳句の形式を理解し、俳句に親しむ。	校庭で探した春の情景を俳句に表し、 クラスで句会を行う。	言葉の玉手箱 （季語紹介）
5月	体育祭を詠む （国1.5）	・言葉を吟味し、体育祭の情景を表す。 ・イメージに合う季語を選ぶ。	取り合わせの技法を用い、体育祭の情 景を俳句に表す。（紙上句会）	
6月	修学旅行を詠む （国1・総3）	・俳句を読み返し、1年生にもわかり やすいように推敲する。	修学旅行中に創った俳句を推敲する。 1学年との合同句会を行う。	俳句紹介
7月	夏の情景を詠む （国0.5）	・夏が来たと思う情景について、季語 を用いずに表現する。	席題「夏来る」にふさわしい情景を考 え、俳句に表す。（紙上句会）	
9月	部活動を詠む （国0.5×2）	・部活動の情景を表現する語句を考 え、工夫して表現する。	3年間の部活動の思い出や印象的な情 景を詠み、クラスで句会を行う。	俳句揭示 など
10月	秋の情景を詠む （国2）	・秋の季語に関する知識を広げる。 ・表現の仕方について批評文を書く。	秋の情景を俳句に表し、推薦する友だ ちの句について批評文を書く。	
11月	文化祭を詠む （国0.5）	・表現の工夫を工夫して俳句を創る。	文化祭の思い出を俳句に表す。（紙上句 会）	
12月	写真で詠む （国1・総1）	・写真から情報を集め、工夫して表現 する。	写真から読み取った情報や想像したこ とから俳句を創り、句会を行う。	
1月	冬の情景を詠む （国2）	・俳句を読み比べ、比較しながら評価 する文を書く。	冬の情景を俳句に表し、教員の選んだ 句を比較し、批評文を書く。	
2月	句集づくり （国3）	・様々な俳句を集め、工夫して句集 を編集する。	自分や友だちが創った句にお気に入り の句を加え、「マイ句集」を編集する。	

- ・毎月テーマを決め、俳句の創作にとりくむ。春夏秋冬だけでなく、体育祭や修学旅行などの学校行事や3年間とりくんできた部活動をテーマとすることで、苦手な生徒にもとりくみやすいようにする。
- ・学級や学年での句会を行う。その句のよさはどこなのかを考え、作者本人に伝えることで、批評する視点や言葉についても知る。自分の作品を認められる経験をすることで、次の創作への意欲を喚起する。
- ・授業の導入として季語やその季節にぴったりの言葉を紹介したり（言葉の玉手箱）、生徒が親しみやすい句を掲示したりすることで、日常的に俳句に触れる環境を整える。

6 研究の実際

実践1 春の情景を詠む（4月）

【授業のポイント】

- ・最終目標をはじめに示し、活動を明確にする。
（春の情景を俳句に詠む。句会を行い、よい俳句を相互に選ぶ。）
- ・実際に、春の校庭で句作にとりくむことで、題材を見つけやすくする。
- ・五七五の音律を重視し、俳句のリズムに親しませる。

① **【創作】校庭で各自が「春らしい」と感じる情景を探す。**

春らしい晴れた日を選び、校庭で句作を行った。本校は、夷隅川のそばにあり、校庭には緑があふれている。今年は桜の開花が遅く、すぐに散ってしまったため、散る桜を詠んだ句が多かった。小さな草花や生き物に注目したり川音に耳を傾けたり、グラウンドに寝転んだりと思い思いに「春」を探すことができた。実際に目の前の情景を詠むことで、何を詠んでいいかわからないという生徒が減った。句会を行う（他の生徒の評価を受ける）という目標をはじめに示したため、意欲的にとりくんでいた。

② **【創作】音律を整え、俳句に仕上げる。**

自分が春らしいと感じた情景を、俳句に仕上げた。俳句の創作に慣れていない生徒が多かったため、今回は音律を整えることを重視した。季語や技法についても個に応じてアドバイスをしたが、生徒の自由な発想を生かすため「どの表現を選ぶか、最後に決めるのは自分」というスタンスを崩さないように配慮した。作品が俳句としてよいかどうか重要だが、「自分の作品である」という満足感を重視したいと考えた。

季語がわからないという生徒には、歳時記を紹介した。初めて歳時記を手にした生徒も多く、興味深く調べていた。

授業の様子

<生徒A> 真面目に授業にとりくむことができるが、書くことを苦手としている生徒

推敲前

(創作メモ) 雨の中 サクラ頑張る

大雨と 戦い続ける サクラ

A : 雨の中でも頑張って咲いている桜がすごいと思ったんだけど、五七五にできません。

教員: 「大雨と 戦い続ける」は、とてもすてきな表現だから、下の五だけ変えてみよう。

A : 「サクラたち」「桜たち」……どうしようかな。

教員: 「桜花」と言い切ったり、「桜かな」と切れ字を使ったりするのはどう。

A : 考えてみます。

(しばらく考えている様子だったが、「決めました」と明るい表情で句を提出した)

推敲後

大雨と戦い続ける桜花

③ **【句会】クラスごとにミニ句会を行う。**

初めての句会ということで、ルールを簡素化し、前時に創った俳句を無記名で提示し、よいと思う2句を選ばせることとした。その際、よいと思う理由を必ず書くように指導した。教員の作品も一覧にまぜることで、生徒の興味を引くようにした。【資料3・4】。全員が選んだ句とその理由を発表し、選ばれた作者は名乗り出ることとした。普段は目立たない生徒や国語の苦手な生徒の句が多く生徒から支持をもらったこともあり、「次は自分も選ばれたい」というつぶやきが聞こえてきた。俳句としては、季語が複数入っている句や、音律の崩れてしまった句もあった。また、一般的な春の情景(桜が咲いている、あたたかい)のみに終始した句もあったため、視点が面白い句や表現を工夫している句などは得票にかかわらず紹介した。たくさんの句に触れることで、俳句のリズムや表現の面白さが実感できた。

4月の句会より

春の野は黄・桃・緑に染められて

- ・黄・桃・緑という3つの色で春の様子が伝わりました。
- ・色をたくさん入れていて、他の人とはちがったので印象に残った。

言葉や表現に
注目し、選句
している。

未来へと希望を描くつくしかな

- ・つくしののびのびした感じが自分の未来と希望とぴったりあっている。
- ・「希望を描く」という表現がとてもよかった。

鳥の影卯月の空を駆け巡る

- ・「卯月の空」という言葉から、4月の暖かい空の情景が感じられてよいと思いました。
- ・すべての言葉が格好いい。鳥が元気に飛ぶ姿が伝わってきた。

実践2 体育祭を詠む（5月）

【授業のポイント】

- ・ 取り合わせの技法を知ること、俳句の創作のおもしろさを味わうとともに、選ぶ季語によって句の雰囲気が変わることを体感させる。
- ・ 全員が体験した「体育祭」という学校行事を題材にすることで、俳句を身近に感じさせる。
- ・ 十二音のフレーズを考える場面で、友だちと話し合う時間を設けることで、新たな言葉や表現と出会う機会を増やす。

① 【創作】「取り合わせ」の技法を用い、体育祭の情景を俳句に詠む。

「取り合わせ」とは、五音の季語と季語とは関係のない十二音のフレーズを組み合わせ、俳句に仕上げる技法である。練習も含め、体育祭の情景を思い浮かべ、できるだけ多くの十二音のフレーズを考えるように指導した。今までは「思い浮かべた風景を五七五に当てはめる」という創作方法しか知らなかったため、最初は戸惑ったようだが、教員が見本を示したこと、友だちと話し合う時間を設けたことで、十二音のフレーズをたくさん作ることができた。3年生にとっては中学校生活最後の「体育祭」という、全員がうれしさや悔しさを共有した学校行事をテーマとすることで、生徒の意欲を喚起することができたと考える。4月に比べ、「他の人と違う視点で俳句を創りたい」「もっとわかりやすくしたい」「色を詠みこみたい」など、表現を工夫している生徒がみられた。【資料5】

② 【句会】紙上句会を行う。集まった句の中からよいと思う句に投票する。

行事が多く、句会の時間がとれなかったため、紙上句会を行った。集まった句の中からよいと思う句と理由を投票し、票の多かった句について紹介した。紙上句会については生徒からは、「その場で作者の意図が聞きたい」「選んでくれた理由が直接聞きたい」などの声が上がリ、句会を楽しみにしていた様子が伝わってきた。【資料6】

工夫が感じられる句については、学年だよりに掲載し、保護者にも紹介した。【資料7】

＜生徒B＞ どんな課題にも前向きにとりくむことのできる生徒

- ・十二音のフレーズをたくさん考えることができている。
- ・体育祭の1日を、丁寧振り返り、リズムよく表現している。
- ・「青」と「赤」を詠みこみたいと色彩の対比にこだわって季語を探していたのが印象的であった。

【授業のポイント】

- ・ 修学旅行中に創った俳句を推敲する時間を設けることで、言葉への意識を高める。
- ・ 自分の考えるよい句とはどういうものかについて意見交換することで、推敲のポイントを意識させる。
- ・ 町の図書館と連携し多くの資料を準備することで、季語や俳句について調べやすい環境を整える。
- ・ 1年生との交流の場を設定することで、よりよい表現を目指そうという意欲を喚起させる。

教科書教材の学習を通して、俳句の基本的な知識や表現の仕方の工夫などについて、改めて考えた。自分で俳句を創った経験をもとにして考えたため、作者の意図や俳句に詠まれた情景を想像することができた。俳句について改めて知ったことも多く、修学旅行で詠む自分の句にも生かそうと考えることができた。

修学旅行のしおりに俳句のページを設け、旅行中に1人2句俳句を詠んだ。【資料8】
日常生活を離れ、京都・奈良での体験は生徒にとって印象深いものであり、2泊3日の旅行中に、多くの感動を得ることができたため、ほとんどの生徒にとって俳句を詠むこと自体は難しくなかったようである。事前調査では俳句が創れなかった生徒もしっかりと提出できており、成長が感じられた。しかし、以前より音律は整えられているが、ある意味「誰にでも創れる」句が多くなってしまったように感じられた。句作に慣れてきたからこそ、言葉や表現を吟味しようという意識が薄くなってきてしまったためである。そこで、よい俳句とはどのようなものかについて、意見交換させた。生徒からは「季節感がある句」

「色やにおいが感じられる句」「声に出して読んだときリズムがよい句」「読んだ人に面白
いと思ってもらえる句」「他の人とは違う見方をしている句」「わかりやすい句」などが挙
がった。そこで、改めて観点を明確にし、推敲を行こととした。

推敲のポイント

- ・ いろいろな季語を探そう。
- ・ 五感を使った表現をしてみよう。
- ・ 形容詞や形容動詞を用いずに表してみよう。
(楽しい・きれいだ など)
- ・ 助詞や助動詞を変えてみよう。
- ・ 切れ字などの技法を使ってみよう。



言葉を楽しみ推敲している生徒の様子

これまで繰り返し俳句の創作にとりくんできたことと、教員の見本を示したことで、活
動内容が明確となり主体的に推敲にとりくむ様子が見られた。普段の授業では黙って座っ
ているだけという生徒も、自ら歳時記を手にして熱心
に調べている様子であった。「調べたい」「知りたい」と
いう気持ちは、主体的な学びへの第一歩だと考えられ
る。推敲後の作品の方がよいと、多くの生徒が実感で
き、句会への期待が高まった様子であった。【資料9】



町の図書館と連携し資料を準備

授業の様子

<生徒C> 学習に関して特別な配慮を必要とし、書くことを苦手としている生徒

推敲前 京都に行き清水寺のながめよし

C : 工事をしていたけど、清水寺から見た景色がきれいだった。

教員 : なるほど。素直でわかりやすいけれど、季語を入れたいね。清水寺ではどんな感じ
がしたのかな。

C : 暑かった。清水寺から、涼しい風が吹いてきて気持ちよかった。

季語が載っている本(歳時記)で調べてみます。

(熱心に調べている様子)

教員 : 使ってみたい季語はあったかな。

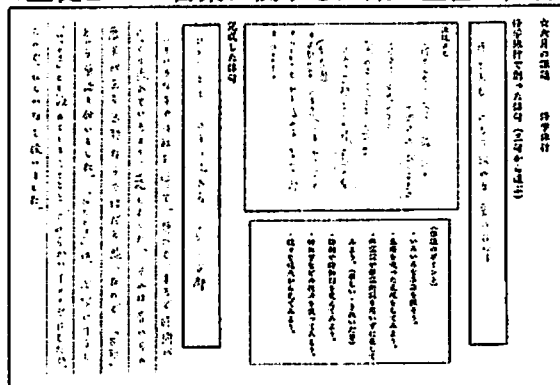
C : 初めて見たけど「首夏」が使ってみたい! 格好いいから。

推敲後 首夏の空清水からの風涼し

※ 「首夏」「涼し」と2つの季語が入っているため、俳句としての評価は低いと思われるが、
初めて出会った言葉を使いたいというCの気持ちを尊重した。

授業の様子(生徒のワークシートより)

<生徒D> 言葉に関する知識が豊富で、書いて表現することが得意な生徒



- ・ よりよい表現を求めて、推敲にとりくんで
いる。
- ・ 助詞にこだわり、何パターンもの表現を比
べようとしている。
- ・ ひらがなと漢字のイメージの違いにも気
を配っている。

③ 【句会】句会「修学旅行俳句大会」を開く。(総合的な学習の時間)

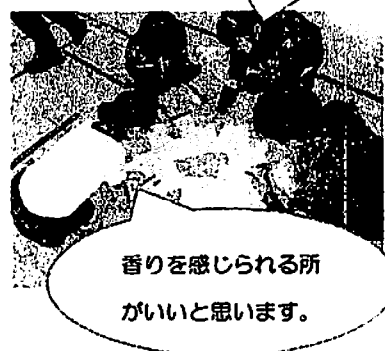
総合的な学習の時間を使い、3年生だけでなく1年生との合同授業として句会を行った。自分たちだけでなく多くの人の目に触れ、評価されるということは得難い経験になると考えた。また、実際に修学旅行に行っていない1年生にも伝わるようにという、相手意識も持つことができた。【資料10】学校長をはじめとした引率職員も俳句の創作に協力してもらうことで、生徒の興味を喚起できた。3年生の53句(特別支援学級の生徒も参加)だけでなく、教員の俳句が交じっていると知り、生徒から驚きの声が上がった。前時に推敲の時間をとったため、全体的に整った句が多くなり、選句にとっても悩んでいた。1年生にとっては、初めて出会う季語や言葉が多く、興味深そうに鑑賞している様子がみられた。【資料11】

班別討議では、様々な意見が出たため、まとめるのに苦労している様子であった。普段、話し合いを苦手としている生徒も、「よい俳句を3つ選ぶ」という明確な目的があったためとりくみやすかったと考えられる。3年生は推敲のポイントを学習したこともあり、視点や表現の面白さに加え、視覚だけでなく嗅覚や聴覚など五感を意識して作られた句を選んでいった。

披露では、各班の代表者が選んだ句とその理由を発表した。前述の生徒Cの句にも2票が入り、驚きながらも嬉しそうな様子であった。結果発表で学校長の句3位となり生徒から拍手がおきた。終始、暖かな雰囲気が進み、国語が苦手な生徒からも「とても楽しかった」という感想を聞くことができた。楽しいと感じたことで、今後への意欲とつながったと考えられる。



選句



披露

句会より

薫風の京の町並み茶の香り

→ 嗅覚

・薫風と茶の香りという表現がよい。京都らしさを感じた。(京都を思い出した。)

おおきに」と鳴り響く声京の夏

→ 聴覚

・「おおきに」という言葉が京都らしくてよいと思いました。

句会の様子



水無月に和を飾る圓銀閣寺

→ 表現の工夫

- ・「庭」ではなく「圓」と表現しているところが格好いいと思う。
- ・「和を飾る圓」という表現が京都（日本）らしくてよいと思いました。

涼風に木もれ日おどる鹿の背かな

→ 表現技法（擬人法）

- ・「木もれ日おどる」という表現がよい。
- ・全体的に美しくまとまっている。「木もれび」の部分に擬人法を使っているのがよい。

参加した1年生の感想より（抜粋）

【資料12】

- ・3年生の俳句を詠んだとたん、行ったこともない京都や奈良の風景がパッと浮かんできました。言葉選びもさすがだなあと感じました。初めて聞いた言葉もあり、とてもいい体験になりました。
- ・日常使っている言葉をそのまま描くのではなく、言葉を選んで美しい言葉に変えているのがとても良いと感じました。言葉を選ぶことで人への伝わり方も違ってくるのかなあと感じました。
- ・修学旅行に行っていない人でも、京都や奈良の風景を思い浮かべやすかった。季語や京都・奈良にあった言葉を上手に用いていてすごいなと思った。一つの言葉にもたくさんの思いがこもっているのがよく伝わってきた。俳句を鑑賞したあとの3年生の感想もすばらしかった。



句会で発表する1年生の様子

実践4 俳句を身近に感じられる環境の整備

本校は自然豊かな地域にあるが、生徒は普段の生活の中で季節を意識することが少ないように感じた。そのため、身近に俳句や季語を感じるとともに、多くの言葉や表現に触れられるよう環境を整えた。生活の中に季語が根付いていること、日本の四季や自然の素晴らしさにも目を向けさせるよう努めた。

① 言葉の玉手箱（季語の紹介）

授業の導入として、季語や季節感のある表現を日常的に紹介する。知っておきたい表現や、教科書教材「季節のしおり」に掲載されているもの、大多喜町で目にする動植物などに加え、こんなものまで季語なのかという驚きを味わえるような語も選ぶように心がけている。長い時間をかけて教え込むのではなく、端的に紹介することでもっと知りたいという興味を持たせるようにしている。

紹介した季語の例（抜粋）

- ・4月 …花曇り 花冷え 鳥雲にいる
- ・5月 … 薫風 青嵐 葉桜 端午
- ・6月 …入梅 短夜 雲の峰 鹿の子
- ・7月 … 南風 炎天 蟻 冷蔵庫 など

② 俳句紹介・俳句掲示

句集や過去の文集「いすみ」などから、生徒が親しみやすいと思う名句を選び、紹介している。また、自分たちの創った句を常に掲示しておくことで、俳句を目にする機会を増やすことができ、友だちの作品のよいところを自分の作品に生かすようになった。



作品掲示の様子

③ 歳時記や関連書籍の配架

町の図書館と連携し、歳時記や季寄せ、俳句に関する本などを多く提示した。町の図書館司書から薦めてもらった本なども含め、数冊ずつではあるが、年間を通して学級文庫に配架していくことで、言葉に対する興味関心を高めることにつながった。



学級文庫の様子

7 成果と課題

成果

仮説① 俳句の創作や句会に親しむことで、日本語の豊かさに気づき、言葉に対する意識を高めることができるであろう。

- ・俳句の創作を継続し、日常化したことで、事前調査では俳句を創ることのできなかった生徒が、自分なりに工夫した作品を仕上げるできるようになった。
- ・俳句の創作において、歳時記などの資料を用い、自ら調べ推敲するという主体的な学びの姿勢が生まれ、日本語の豊かさに気づくことができた。
- ・俳句を創作して終わりではなく、句会を行ったことで、多くの生徒が自分の作品が認められたという喜びを味わうことができ、さらに表現を工夫したいという意識を持つことができた。【資料13・14】

仮説② 日常的に俳句や季語にふれる環境を整えることで、語彙を広げることができるであろう。

- ・日常的に季語を紹介したり、歳時記等を身近に置いたりすることで、新しい言葉を知ることができ、俳句の創作に生かすことができた。
- ・俳句の紹介や掲示を通し、多くの俳句と出会うことで、表現や言葉に興味を持ち、新たな語彙の獲得につながった。

課題

- ・俳句創作以外の場面での言葉に対する意識に差があるように感じられる。文章を書いたり、スピーチをしたりする際にも、意識できるように工夫したい。
- ・選句の理由がうまく表現できない生徒もあり、批評に関する語彙が不十分だと感じる。今後は、俳句の創作や句会を継続するとともに、自分がよいと思った俳句の批評文を書く活動も取り入れていきたい。

資料編

資料1	事前調査「小学校の学習を生かし、俳句を作りなさい」 (テーマ自由 2句以内) 2016. 12月	p.1
資料2	事前学習「俳句の基礎 年末年始の情景を詠む」 2017. 1月	p.2
資料3	実践1 春の情景を詠む【句会 ワークシート】 2017. 4月	p.3
資料4	実践1 春の情景を詠む【作品一覧】 2017. 4月	p.4
資料5	実践2 体育祭を詠む【ワークシート】 2017. 5月	p.5
資料6	実践2 体育祭を詠む【作品一覧】 2017. 5月	p.6
資料7	実践2 体育祭を詠む 【学年だより「飛翔」】 2017. 5月	p.7
資料8	実践3 修学旅行を詠む 【修学旅行 しおり】 2017. 6月	
資料9	実践3 修学旅行を詠む 【ワークシート】 2017. 6月	p.8
資料10	実践3 修学旅行を詠む 【作品一覧】 2017. 6月	p.9
資料11	実践3 修学旅行を詠む 【句会の流れ】 2017. 6月	p.10
資料12	実践3 修学旅行を詠む 【1年生の感想】 2017. 6月	
資料13	夏の情景を詠む(席題「夏来たる」)【作品一覧】 2017. 7月	p.11
資料14	生徒Eの作品の変遷 2年生 12月 ~ 3年生 7月	p.12

A (未回答)
B 粉雪が地に舞い降りて雪景色
YouTube 一日一度のお楽しみ！
C 秋の風少し涼しく秋の香り
読書の秋本よみなが(ら)くつろぐ時間
D 白い息吐くたび思う冬が来た
E 雪だるま鼻ににんじんぶっさした

抽出生徒A～E

1 来る冬にビックな氷柱あこがれや
(未回答)
2 クリスマス今年の楽しみやってきた
勉強のお祭り騒ぎだ1年後
3 木の葉落ち寒さ身にしみ縮こまる
4 花の芽のつぼみ閉じつつ春を待つ
夏の日を浴びて輝く草木花(三句回答)
5 初霜の白さに世界が染まりゆく
雪や来ん私はこたつでまるくなる
6 大仏が僕に似ていておどろいた思わず買った銀の大仏
ポスターを自分で書いた人の絵は投げ方違う不思議な絵だな
(未回答)
7 寒い中アイスを食べた寒くなる
雪だるまキレイにできてうれしいな
8 寒い夜夜空を見あげ星を見る
9 金管部ドラムの思いわずれない
かき氷とても冷たく頭キーン
10 イチョウの葉秋から冬へ落ちてゆく
11 地の水に溶けて消えたよ初雪が
12 気がつけば窓から見える雪景色
13 雪の日はあたり一面白銀の世界
14 冬の朝辺りに広がる白い息
15 冬の夜あかいひかりにともされて
16 おおみそかかすかにひびくじよやのかね
17 紅葉は秋のおとずれ感じるな
18 明るくて笑顔あふれる大中生
(未回答)
19 雪積り桃色におう冬桜
20 秋の山真っ赤にもえる
21 クリスマス楽しい日をね過ぎしたい
十五夜の
22 溶ける雪さよなら告げて溶ける心
23 クリスマスサンタになにをたのもうか

24 見渡せば花も紅葉もなかりけり
25 紅葉がつもりつもった山の道
26 クリスマスイルミネーションそく爆破
27 霜が降り白で染まった朝の庭
28 肌寒く話すたび出る白い息
29 行く年に別れをつけて前へすすむ
30 気づいたら自分の寄せ木壊された
舞う落ち葉集めは捨てるこの季節
31 冬の道凍る草花さむしろに
32 しんゆうと別れと出会いに卯月来る
33 暑さから磯の香りは夏の訪れ
34 遠い空我に残るは過去と未来
35 ああ星は私の命空は冬
36 雪のよにいつかなくなる
(未回答)
37 我厚着木々は薄着になる日々よ
吐く息の白きが道をたどる朝
雲の色黒ければ雨白は晴れ。
38 ただ歩く下向きあるき
39 落ち葉ちり北風そよぐ
40 クリスマスみんな笑顔光かがやく
(未回答)
41 (未回答)
42 宵の明星は、月の近くに輝く星
43 冬来たり木の葉が散って寒さ強まる
(未回答)
44 桜の葉上下左右に舞い散った
(未回答)
45 冬蜂の死にどころなく歩きけり
46 じゃんけんで負けて堂に生まれたの
(未回答)
47 ゆらゆらと窓からのぞく桃の花

- ・未回答の生徒や未完成の句が多い。テーマを自由にしたこともあり、創作意欲が持てず、何を詠むか思いつかなかったようであった。
- ・音律の崩れが目立つ。
- ・国語の得意な生徒も、季語を重ねて用いる傾向があった。

指導のポイント

- ① 五・七・五の音で作る。(指を折って数える)
- ② 季語を一つ入れる。(わからないときは歳時記を使う)
- ③ 美しい きれい うれしい すごい などの言葉は使わない。
- ④ 絵に描けそうな言葉を使う。

- A 二万円祖母に感謝のお年玉
B 新春をジャンプで迎え笑顔咲く
C 初春や日の出満喫露天風呂
D 団らんと雑煮が生み出す温かさ
E ねしょうがつゴロゴロしてた家の中

抽出生徒A～E

- 1 明ける年抱く思いや親せきと
- 2 初日の出願いをこめて鐘鳴らす
- 3 初日の出両手を合わせ丘の上
- 4 年の朝旅立つ我らの故郷へ
- 5 鏡餅家族の思いしかとこね
- 6 練習を年末年始大高で
- 7 新年をのんびり過ごす家族かな
- 8 いいことがありますように明の春
- 9 元日に餅を食べ過ぎ横になる
- 10 新年は小豆や雑煮おいしき日
- 11 十二月朝早くからカワサキ杯
- 12 除夜の鐘年の変わりを感じたり
- 13 甘酒を飲んでばかばか初詣
- 14 年越しや待つことできず落ち着けぬ
- 15 色エンピツいそいで描いた年賀状
- 16 初日の出輝く海に波の音
- 17 除夜の鐘静かな町に響きけり
- 18 初日の出雪の鏡に反射して
- 19 大吉が家族三人初みくじ
- 20 お正月予感的中餅太り
- 21 初詣響きわたりし鈴の音
- 22 初詣勝利を願い目を閉じる
- 23 元日や眠って食べるひたすらに

- 24 雪降って長野の夜の寒さます
- 25 ゆげがたつお雑煮二杯もち六つ
- 26 初詣ごえんに夢を託しけり
- 27 初詣いすみ神社で友達と
- 28 気持ちよくすべる隣でしづり雪
- 29 よき年に鈴の音なった初詣
- 30 独往で夕日と共に初詣
- 31 淡々と初春月を過ぎしけり
- 32 大晦日静かな夜に鐘が鳴る
- 33 「久しぶり」紅色ほほに初日かな
- 34 初詣願いを胸に目をつむる
- 35 年の瀬を告げる杵音響く空
- 36 年の暮ガキの使いで盛り上がる
- 37 初夢や願いし目覚めもう少し
- 38 去年今年もち食べすぎて太る時期
- 39 駅に行く男の姿鏡餅
- 40 新年や雑煮を食べて餅のびる
- 41 祖母宅で皆で集まり新年会
- 42 人々の心動かす年一夜
- 43 寒い朝輝く目には初日の出
- 44 (欠席)
- 45 初詣今年も金賞とってやる
- 46 初詣大吉願いみくじ引く
- 47 成田山屋台の香り響く声

※生徒の番号は 資料1と共通

- ・資料1で未回答だった生徒も俳句を仕上げる事ができた。
- ・歳時記を用い、季語を調べた生徒は、今まで知らなかった言葉との出会いを喜んでいたので印象的であった。(4・8・28・31・42)
- ・季語に関する知識が足りず、自分の句に季語が複数入っていることに気づけない生徒もいた。(C・9・10・40など)

A組

四月の俳句

- ① 鶯のやうな声のけしきにうしろ
- ② 春の風吹くやうに桜の花
- ③ 春の空の青い空の青さ
- ④ 桜の木が花を咲かせる
- ⑤ 桜の花が咲くやうな声
- ⑥ 大木と桜の咲くやうな声
- ⑦ 桜の空の青い空の青さ
- ⑧ 桜の空の青い空の青さ
- ⑨ 桜の空の青い空の青さ
- ⑩ 桜の空の青い空の青さ
- ⑪ 桜の空の青い空の青さ
- ⑫ 桜の空の青い空の青さ
- ⑬ 桜の空の青い空の青さ
- ⑭ 桜の空の青い空の青さ
- ⑮ 桜の空の青い空の青さ
- ⑯ 桜の空の青い空の青さ
- ⑰ 桜の空の青い空の青さ
- ⑱ 桜の空の青い空の青さ
- ⑲ 桜の空の青い空の青さ
- ⑳ 桜の空の青い空の青さ

☆ 自分の句を推敲しよう

番号 (19)

桜が主役という表現がよかったと思いました。

表現に注目して選んでいる。

理由
「桜が主役」という表現がよかったと思いました。

番号 (20)

桜の空の青い空の青さ

理由
「桜の空の青い空の青さ」という表現がよかったと思いました。

番号 (21)

桜の空の青い空の青さ

理由
「桜の空の青い空の青さ」という表現がよかったと思いました。

番号 (22)

桜の空の青い空の青さ

理由
「桜の空の青い空の青さ」という表現がよかったと思いました。

番号 (23)

桜の空の青い空の青さ

理由
「桜の空の青い空の青さ」という表現がよかったと思いました。

番号 (24)

桜の空の青い空の青さ

理由
「桜の空の青い空の青さ」という表現がよかったと思いました。

番号 (25)

桜の空の青い空の青さ

理由
「桜の空の青い空の青さ」という表現がよかったと思いました。

番号 (26)

桜の空の青い空の青さ

理由
「桜の空の青い空の青さ」という表現がよかったと思いました。

番号 (27)

桜の空の青い空の青さ

理由
「桜の空の青い空の青さ」という表現がよかったと思いました。

番号 (28)

桜の空の青い空の青さ

理由
「桜の空の青い空の青さ」という表現がよかったと思いました。

番号 (29)

桜の空の青い空の青さ

理由
「桜の空の青い空の青さ」という表現がよかったと思いました。

番号 (30)

桜の空の青い空の青さ

理由
「桜の空の青い空の青さ」という表現がよかったと思いました。

B組

四月の俳句

- ① 風をよぶ桜の心がゆめ
- ② 桜の花が咲くやうな声
- ③ 桜の花が咲くやうな声
- ④ 桜の花が咲くやうな声
- ⑤ 桜の花が咲くやうな声
- ⑥ 桜の花が咲くやうな声
- ⑦ 桜の花が咲くやうな声
- ⑧ 桜の花が咲くやうな声
- ⑨ 桜の花が咲くやうな声
- ⑩ 桜の花が咲くやうな声
- ⑪ 桜の花が咲くやうな声
- ⑫ 桜の花が咲くやうな声
- ⑬ 桜の花が咲くやうな声
- ⑭ 桜の花が咲くやうな声
- ⑮ 桜の花が咲くやうな声
- ⑯ 桜の花が咲くやうな声
- ⑰ 桜の花が咲くやうな声
- ⑱ 桜の花が咲くやうな声
- ⑲ 桜の花が咲くやうな声
- ⑳ 桜の花が咲くやうな声

☆ 自分の句を推敲しよう

番号 (19)

「通せんぼ」という表現のしかたがかわいらしくていいと思いました。

表現に注目して選んでいる。

理由
「通せんぼ」という表現がかわいらしくていいと思いました。

番号 (20)

桜の花が咲くやうな声

理由
「桜の花が咲くやうな声」という表現がよかったと思いました。

番号 (21)

桜の花が咲くやうな声

理由
「桜の花が咲くやうな声」という表現がよかったと思いました。

番号 (22)

桜の花が咲くやうな声

理由
「桜の花が咲くやうな声」という表現がよかったと思いました。

番号 (23)

桜の花が咲くやうな声

理由
「桜の花が咲くやうな声」という表現がよかったと思いました。

番号 (24)

桜の花が咲くやうな声

理由
「桜の花が咲くやうな声」という表現がよかったと思いました。

番号 (25)

桜の花が咲くやうな声

理由
「桜の花が咲くやうな声」という表現がよかったと思いました。

番号 (26)

桜の花が咲くやうな声

理由
「桜の花が咲くやうな声」という表現がよかったと思いました。

番号 (27)

桜の花が咲くやうな声

理由
「桜の花が咲くやうな声」という表現がよかったと思いました。

番号 (28)

桜の花が咲くやうな声

理由
「桜の花が咲くやうな声」という表現がよかったと思いました。

番号 (29)

桜の花が咲くやうな声

理由
「桜の花が咲くやうな声」という表現がよかったと思いました。

番号 (30)

桜の花が咲くやうな声

理由
「桜の花が咲くやうな声」という表現がよかったと思いました。

- A 大雨と戦い続ける桜花
 B 春の音せせらぐ川と友の声
 C 春空や川のせせらぎ風そよぎ
 D 春の野は黄・桃・緑に染められて
 E 春うらはなびら落ちてひらひらら

抽出生徒A～E

- 1 揺れる木々若葉の音はさわやかに
 2 桜の木季節いろどる主役たち
 3 ニヨキニヨキニヨキ頭を出して春の予感
 4 春の空出会いと別れをくり返し
 5 ハルジオン青空に向け背のびする
 6 春の色緑の空気の暖かさ
 7 春桜君に届けと恋心
 8 春風にゆらりゆられて花らんまん
 9 春の風散りゆく桜運びけり
 10 校内へすすし運ぶ春の風
 11 春桜ピンクに染まる季節かな
 12 鮮やかに色あい染まる春の色
 13 鳥の影卵月の空を駆け巡る
 14 葉桜や季節の終わりもう近い
 15 春の空夢へいざなう光たち
 16 川の中ひらひら揺れる桜たち
 17 花ふぶき心も染まる桜色
 18 花まんかい春の訪れみにしみる
 19 太陽に川となのはな照らされて
 20 桃色に彩る春めいて
 21 ゆるやかな川の流れの春の音
 22 そよ風で葉の花揺れる川の岸
 23 眼鏡ごし広がる空は春の色
 24 暖かな空に向ってつばめ飛ぶ
 25 グラウンド春空の下さくら色
 26 風に揺れ逃げる葉の花虫が追う
 27 桜まじ新生活を応援す
 28 花びらが揺れて散りけり出会いの日
 29 花曇浮かれ気分に通せんぼ
 30 桜色春風とともにどこいくか

- 31 風の声静かにひびく花の下
 32 桜舞う新たにはじまるこの一年
 33 期待乗せ散りゆく桜我が人生(みち)よ
 34 耳すまし目を閉じ浮かぶ春の川
 35 未来へと希望を描く土筆(つくし)かな
 36 桜散るあらたな季節がはじまりし
 37 風そよぎ桜(はな)の心もゆられてる
 38 たんぽぽが日差しをなかでかがやく日
 39 良いしらせ鳥が鳴いたら季節春
 40 つばめ飛ぶ天に向かって天高く
 41 あたたかい日差しとともに春目覚め
 42 川音に春を感じる心揺れ
 43 桜咲き春を感じる川の岸
 44 桜ちり葉っぱが緑に新緑だ
 45 花ひらくともに感じる暖かさ
 46 正門の桜を散らす風吹きし
 47 咲きほこる桜の下川の声
 職 春の空ふわり浮かんだ雲ひとつ
 職 待ちかねし桜とともに笑顔咲く

※生徒の番号は 資料1と共通

- ・春の校庭で句作したため、咲いていた桜や近くを流れる川を詠んだ句が多くなった。
- ・春と桜が多いが、使える季語の種類が増えてきている。
- ・音律を整えることができています。
- ・他の人とは違う視点で書きたいという生徒が増えた。
- ・擬人法など比喩の表現が増えた。
- ・句会で多くの生徒に選ばれた句
(B・D・E・5・13・26・35・37)

生徒 B

俳句を詠もう
☆五月の課題
取り合わせ

◇単語とは関係のない十二音のフレーズ

- ・輝く汗と優勝旗
- ・若人達の輝く日
- ◇若き魂 燃える赤
- ・勝利目指して 進む赤
- ・努力の証 優勝旗
- ・負けないほどの燃える赤
- ・我らの気持を 勝利の力

◇一番自信があるフレーズを選び、俳句に仕上げるよう

風青し 若き魂 燃える赤

体育祭の日の 初夏の青い風の中、赤団の若人達が一生懸命戦っている様子を吼えました

生徒のメモから「炎天や」「雲の峰」「青芝や」など、季語に悩んだことがわかる。
どうしても、青と赤を対比したいと歳時記から初夏らしい爽やかな印象の「風青し」を選んだ。

その他の生徒

俳句を詠もう
☆五月の課題
体育祭
取り合わせ

◇単語とは関係のない十二音のフレーズをたくさん考えよう！

- ・歩きずきは 水のせい
- ・水分補給 したから
- ・締りこもったつなぐ足
- ・引けば引かぬ……
- ・止まらぬように足をとる
- ・あの熱戦を語りだす

◇一番自信があるフレーズを選び、俳句に仕上げるよう

日焼あつ 風呂で 熱戦語りだす

お風呂にて
湯が触れた時の激痛

他の生徒と違う視点で書きたいという意思の強い生徒。体育祭中ではない場面を選んだ。
「あの」がわかりづらいとアドバイスしたところ、「風呂で」と変えた。より明確で面白味のある句になった。

A 目標に向かって走り汗流す
 B 風青し若き魂燃える赤
 C 涼風やくやし涙の体育祭
 D 炎天に飛び交う声と駆ける足
 E 炎天下心ひとつにレッツゴー

抽出生徒A～E

31 涼風やあげてはしゃいだ水しぶき
 32 汗流し惜しくもとどかぬ皆の声
 33 涼風や幸運祈り響く声
 34 夏の空自然に笑顔こぼれた日
 35 炎天や木かげの我と走る友
 36 炎天や気合いだラスト二周半
 37 青芝や悔し涙も思い出に
 38 涼風にすべった後の重い服
 39 青芝で開始数秒騎馬崩す
 40 風青し声を合わせてゴールする
 41 新緑にそよぐ我らの応援歌
 42 風青し懸ける思いに涙した
 43 青芝でゴールを目指す皆の足
 44 汗流し気合いで走るムカデリレー
 45 夏の空遠くを見てて吹きすさす
 46 夏の風背中おされてゴールする
 47 初夏に声をかけあい前進む
 職 汗流る友と勝負の騎馬の上
 職 友信じ踏み出す一歩初夏の風

※生徒の番号は 資料1と共通

1 笑顔へと変わりゆく汗思い出に
 2 初夏の空「一二一二」と響く声
 3 祭りの日はちまき片手にいざ出陣
 4 炎天下色別リレー白熱す
 5 五月晴れ舞い散る水と舞う笑顔
 6 日焼けして大将騎とる騎馬戦で
 7 夏の空絆の綱を全力で
 8 夏の空つなげたバトン涙する
 9 炎天下体で浴びる冷えた水
 10 初夏の昼天まで届く応援歌
 11 初夏の朝二百メートル本気出す
 12 初夏の昼ブルーシートをすべりぬく
 13 夏盛り天まで届け皆の声
 14 暑き日にかけて声合わせ走り出す
 15 夏の空努力の証ムカデリレー
 16 汗流し揃う足並み声合わせ
 17 優勝旗皆で流した汗涙
 18 暑き日にやっと手にした優勝旗
 19 汗流し全力戦闘白図と
 20 青春や希望に燃えた汗涙
 21 晴天に声響きけり空高し
 22 炎天に不屈の闘志つなぐ赤
 23 炎天下勝利目指して一直線
 24 初夏の日の風にゆられる優勝旗
 25 夏の土はだして走り痛む足
 26 炎天にいいんですかと響く声
 27 炎天や勝負を忘れとびこんだ
 28 汗にぎり風より速くかけ抜けた
 29 日焼けあと風呂で熱戦を語りだす
 30 炎天下ほとんど負けて自信消え

- ・「取り合わせ」の技法に初めて挑戦した。十二音のフレーズをたくさん作ることができたが、どれが1番いいのかという判断が難しかった。
- ・実際に全員が一緒に体験した「体育祭」という行事を詠んだことで、4月よりもスムーズに仕上げられた生徒が多かった。
- ・音律を整えるだけでなく、体言止めや切れ字などの技法を取り入れる生徒が増えてきた。
- ・句会で多くの生徒に選ばれた句
 (B・D・1・5・20・26・28・34)

 大多市町立大多高中学校
 3学年 学年だより
 No. 3
 2017. 5. 30発行

行事を通して学んでほしいこと

5月も終わりが近づき、校舎から見える景色も夏色になってまいりました。5月20日(土)に行われた体育祭では、たくさんの保護者の皆様に応援していただき、ありがとうございました。体育祭だけでなく、3年生にとってはすべてが「最後」の行事です。仲間との絆、金力で頑張ることのすばらしさ、まだまだ行事を通して学んでほしいことがたくさんあります。

さて、いよいよ明日から修学旅行です。体育祭を通して結ったクラスの絆をさらに固めつつ、京都・奈良の歴史に触れられる3泊3日にしてほしいと思います。すばらしい修学旅行になりますように。



らびの国福岡県コンテスト

生活向上委員を中心に、全校生徒でいじめについて考え、探綴を作り出した。優秀な作品と認められたる保護者を紹介します。

●最優秀賞 さん
あなたには おの子の顔 見えますか
「つらい、切れて。」 聞こえますか
●優秀賞 さん
さん



おれ達のコンクール

むし歯のない美しい歯が認められ、6月5日(木)に行われる「茨城県市よい歯のコンクール」に、

さんが さんが
が大多摩中学校の代表として参加します。
全員がしっかりと働きみがけ、毎日
笑顔で過ごしてほしいと願います。

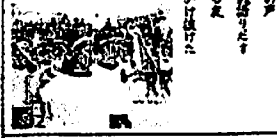


今月の予定

下校時刻 18:30



1日(木) ~ 2日(金)	部活打ち 其の決定	19日(月)	大倉市教育委員会 委員会開
3日(土)	テスト前部活中止	20日(火)	小テスト (国語)
6日(火)	テスト前部活中止 小テスト (英語)	21日(水)	学校公開
7日(水)	テスト前部活中止 延期日課	22日(木)	学校公開 敬愛教会 立正教育学校
8日(木)	テスト前部活中止	23日(金)	プール実習
9日(金)	中間テスト (国・算・英・理・社)	24日(土)	部活決定 基督教部実習
11日(日)	部活休校 (国・算)	26日(月)	①部活参加教室 (3年)
15日(木)	国民の日	27日(火)	基督教部実習
16日(金)	3年校内テスト 朝校始業 部活始業	29日(木)	専門委員会
		30日(金)	プール実習



傳句で組る体育会

昔々ある堂に於ては丹波
五月晴れ霞に映る水に勝る木蘭
深風にすべく後雨の星が輝
夏の空の隅々を照らす
初夏の空（ハニ）と云くや
雲々に霞に交う花の影の足
さふさふおひりりゝ風然ず
空々と吹合いたラスト二時半
風争い船への思いに生れた

二十八庭

友人にいい
初夏の昼人
優雅な空で
風をきき
夏の空は

んですのち
まで届くた
流した汗流
遠慮もあ
に不願ひれ

70

沖波し
 春風や
 春風下
 夏の風
 春風に
 春風下

情しくもどきどき
胸し波も思ひ
西の日は落ちて
宵中おされて
日にわつと去る

6806A
H
一
7-14
した



んた



修学旅行 俳句大会

2泊3日の修学旅行では、普段の生活では感じることのない体験をたくさんすることができそうです。奈良や京都で見た景色の美しさ、旅先で感じたことや考えたことなどを、大切に振り返りましょう。5・6月の季節は「夏」です。修学旅行中にいくつかの季節を見つけられることができませんか。

帰学旅行から戻った後、学年全体で句会を開く予定です。
すばらしい作品を期待しています。

- * テーマ「修学旅行」
- * 1人3句
- * 提出：6月5日(月)



夏の字語 (例)

夏、立夏・夏に入ら。奉月・五月・水經月・六月・入經・陽西・
 短夜・晝の長・深し・暑し・灼くも・雲の雄・薄・雨降・青龍・
 五月雨・夕立・虹・夏野・清水・泉・湧り・夏簪子・新茶・
 龍眼・時鳥・鮎・鰯子・蛙・牡丹・百合・橘・花菱草・蓮・葵・
 番麥・仰の花・紫花・番葛・万葉・草・紫陽花・夏衣・浴衣・
 夏座敷・日傘・打水・昼寝・日焼・汗・鮎・芡天・冷麦・香水・
 噴水・扇風機・夏の山・子鹿・鹿の子・蛸蛸・氣の子・雨蛙・
 鰻鮒・山姥魚・蛇・黒立烏・郭公・燕の子・白白・夏鴨・青鸞・
 白鷺・目黒・金魚・水鳥・天狗虫・夏の蝶・陽羽蝶・蜘蛛・
 桜の葉・桜の花・石菫子・菖蒲・繡線

セト

花や木、生き物を見たり運動会さんやゲームさんに聞いてみよう！

修學旅行 俳句大会

三年（一組）（命・氏名）

教員の見本

☆六月の課題 修学旅行
修学旅行で創った俳句（三句から選ぶ）

俳句を詠もう

生徒が推敲にとりくみやすいように教員の見本を示した。

修学旅行で行った生徒が多かった「金閣寺」を取り上げること、わかりやすい表現を心がけること、文字を大きめにすることで、生徒に親しみを持たせ、「自分にもできる」と思わせられるよう配慮した。

完成した俳句

若葉の緑色が美しかったので、若緑を使いました。金閣寺は池の中に建て、いて、まるで水の上に浮かんでいるようにでした。金閣と言わなくても、金の寺でも伝わると思い表現を工夫してみました。

水面に写って輝く金閣寺

（俳句のポイント）
・いろいろな季語を使う。
・正座を使った表現をしてみよう。
・金閣寺や金閣寺の池をうまく使ってみよう。
・金閣寺の池の風景をうまく使ってみよう。
・金閣寺の池の風景をうまく使ってみよう。

（俳句のポイント）
・いろいろな季語を使う。
・正座を使った表現をしてみよう。
・金閣寺や金閣寺の池をうまく使ってみよう。
・金閣寺の池の風景をうまく使ってみよう。

完成した俳句

水面に写って輝く金閣寺

（俳句のポイント）
・いろいろな季語を使う。
・正座を使った表現をしてみよう。
・金閣寺や金閣寺の池をうまく使ってみよう。
・金閣寺の池の風景をうまく使ってみよう。

生徒 D

☆六月の課題 修学旅行
修学旅行で創った俳句（三句から選ぶ）

俳句を詠もう

時こなし わりり流れる 夏の百部

完成した俳句

ひとことし わりり流れる 夏の百部

（俳句のポイント）
・いろいろな季語を使う。
・正座を使った表現をしてみよう。
・金閣寺や金閣寺の池をうまく使ってみよう。
・金閣寺の池の風景をうまく使ってみよう。

（俳句のポイント）
・いろいろな季語を使う。
・正座を使った表現をしてみよう。
・金閣寺や金閣寺の池をうまく使ってみよう。
・金閣寺の池の風景をうまく使ってみよう。

Dは書くことが得意な生徒である。上の教員の見本と、歳時記を用い、真剣に推敲にとりくんだ様子がわかる。

ひらがなと漢字のイメージの違いなど、自分なりの価値観を持っており、語彙の豊富さ・表現の豊かさを感じる。

- A 初夏の日に光かがやく金の寺
B 京散歩兼松の道おっちゃんど
C 首夏の空清水からの風涼し
D ひとときもゆるり流れる夏の古都
E 短夜や今日も元氣に行ってみよう

抽出生徒A～E

- 1 古都の道遠くで響く蟬の声
2 夕焼けに照らされ輝く京の町
3 冷水でべっぴんさんに変身す
4 兼風に微かに響く鈴の音
5 水無月の日差し穏やか京の道
6 真夜中に雷なって落ちにけり
7 人混みに青葉輝く金閣寺
8 青時雨お祈りをした叶うはず
9 金閣寺初夏の太陽はねかえる
10 山歩き竹の香りとぬぐう汗
11 鹿の子や鹿の名物食べまくる
12 古都の奈良見わたすかぎり鹿の子かな
13 鹿と友と涼しき雨に囲まれて
14 夏めく日奈良の大仏見上げたり
15 初夏の奈良鹿をおいかけ逃げられる
16 急ぎ足古都の緑陰散策す
17 万緑に歴史感じる京の風
18 「おおきに」と鳴り響く声京の夏
19 万緑や迫力のある黄金色
20 水無月に和を飾る圓銀閣寺
21 兼風の京の町並み茶の香り
22 人と鹿どっちが主か奈良公園
23 緑陰や歴史感じる古都の町
24 夏風にゆられきらめく金の池
25 地主神社大吉引きけり清和な日
26 日傘さす人混み写るレンズかな
27 夏の山古都の旅路を思い出す
28 炎天や友と旅する京のまち
29 雷鳴が葉を照らしつつ夢うつつ
30 湖に若葉ゆらめく金閣寺

- 31 兼松や歴史を語る背伸びして
32 夕立やながめて思ふ三日間
33 香水や赤い頬紅映え染むる
34 万緑に風を感じる京の庭
35 涼風に木もれ日おどる鹿の背かな
36 五月闇夜が明けるまで食いだおれ
37 青嵐あつとうの御所おさめけり
38 夏の池さかさに光る金の寺
39 落雷で広く照らされ眠りつく
40 夏の日や光り輝く金の寺
41 五月晴れ治癒を授ける薬師様
42 夕立に見上げて思う古都の寺
43 雲の峰皆が照りつく金閣寺
44 炎天下光を放つ金閣寺
45 兼松や友との記憶古都の町
46 金閣寺金に染まった若葉かな
47 車月空優しく笑い光る金
48 夏の日に輝いている金閣寺
職 涼しさも心安らぐ朱の参道
職 五月晴れ石で占う我が恋路
職 花は桐秀吉訪ねて三千院
職 千年の変わらぬ笑みに出会う夏

※生徒の番号は 資料1と共通

- ・日常生活と離れ、仲間とともに奈良・京都で過ごした経験は、生徒にとってとても印象深く、全員が俳句を創ることができた。
- ・1年生を招いて句会を開くこと、職員の俳句も一緒に評価されることなどが意欲付けとなり、よりよい表現をめざすことができた生徒が多かった。
- ・体言止めや切れ字を用い、リズムよく創ることができている。
- ・句会で多くの生徒に選ばれた句（職員以外）
(B・2・9・18・21・22・38)

- A 日が落ちて屋台をまわり夏来たる
 B 夏来たる窓から青き木々香る
 C 海の波潮風吹いて夏きたる
 D 三年目靴下焼けの夏来たる
 E 夏来たり母校に替う三連霸

抽出生徒A～E

- 1 夏来たる野球の神様微笑む日
 2 夜空越し舞い散る火花夏来たる
 3 夏来たる祖父の思い出氷砂糖
 4 誰一人いない教室夏来たる
 5 蒼い風黄金(こがね)の日差し夏来たる
 6 窓開けて浴びるそよ風夏来たる
 7 金曜日ジブリ祭りや夏来たる
 8 青い海潮風そよぎ夏来たる
 9 夏来たる冷たい飲み物のどにきく
 10 夏来たる学習会へ集う者
 11 夏来たる最後の大会締めくくる
 12 そよ風や木々が揺れたり夏来たる
 13 虫の音が空気ふるわせ夏来たる
 14 夏来たる親戚集い笑顔咲く
 15 風の声涼しさ恋し夏来たる
 16 夏来たるキラキラ光る青い海
 17 砂浜にそよぐ潮風夏来たる
 18 赤火花夜空にはじけ夏きたる
 19 夏来たる受験勉強始まった
 20 輝かに夜空彩り夏来たる
 21 夏来たるはしゃぐこどもと波の音
 22 氷菓子さじでほおばり夏来たる
 23 甲子園熱い戦い夏来たる
 24 夏来たる大空ひびく友の声
 25 夏来たる夜中の風がこちよい
 26 夏来たる止まることない室外機
 27 緊張と気持ち高まり夏来たる
 28 風涼し肌で感じる夏来る
 29 夏来たる歩道伝いに足裏へ
 30 風さえもうれしく感じる夏きたる

- 31 虫の声やアラーム時計夏来たる
 32 鮮やかな赤や緑の夏来たる
 33 夏来る作文用紙に落書きす
 34 夏来たる眠れぬ夜が続く日々
 35 我が腕の黒さ深まり夏来たる
 36 夏来たる夜ねむれない日々続く
 37 夏きたる見上げようとまぶしくて
 38 夏来たる眠れぬ夜に虫の声
 39 草の香に心落ち着く夏来たる
 40 夏来たる虫たちの声鳴り響く
 41 青空に宿題多し夏来たる
 42 人々の願い夜空に夏来たる
 43 夕焼けがまっかに見えて夏来たる
 44 球児たち熱き戦い夏きたる
 45 ありんこがうじょうじょ歩く夏来たる
 46 夏来たるねこといっしょに虫を見る
 47 潮風と広がる背に夏来たる
 磯 夕暮れにカレーの香せり夏来る

※生徒の番号は 資料1と共通

- ・「夏来たる(夏来る)」を共通の題として、俳句を詠んだ。すでに季語が決まっているため、季語を使わずに表現するということに悩んでしまったようであった。
- ・授業中に25分ほどで割り、改めて推敲の時間をとっていないため、整っていない印象がある。
- ・夏らしいと思う情景というテーマに対し、「夏休み」「かき氷」などのありきたりなものだけでなく、自分なりの表現を目指している。

＜生徒E＞ 落ち着いて授業に参加することができず、難しい課題は投げ出してしまいう生徒。

【事前調査】 雪だるま鼻ににんじんぶっさした

※ つまらなそうな様子で書きなぐって提出。

【事前学習】 ねしょうがつゴロゴロしてた家の中

※ 創作への意欲は感じられなかったが、いつも音律を崩さず、五七五で詠めていることを褒めた。

【4月 春】 春うらはなびらおちてひらひらら

※ 句会で「春うらら」と「ひらひらら」のリズムのよさを、多くの友達に評価され、クラスで同率1位を獲得。→ 活躍できる場

【5月 体育祭】 炎天下心ひとつにレッツゴー

※ たくさんのフレーズを考えることを面倒くさがり、取り合わせは苦手な様子であった。炎天下という季語を気に入る、あつという間に仕上げて提出した。

【6月 修学旅行】 短夜や今日も元気に行ってみよう

※ 修学旅行の宿で早起きをしたことを詠んだ。季語がわからず悩んでいたため、多くの季語を提示したところ、「短夜や」を選択した。

【7月 夏来る】 夏来たり母校に誓う三連覇

※ 席題として示した「夏来たる」から、熱心にとりくんできた部活動の情景を思い描いて詠んだ。「母校」や「誓う」などの表現を会話や作文でEが使ったことはなかったため、語彙の広がりを感じた。

Eが4月に多くの評価を獲得したことは、Eにとっても周囲の生徒にとっても大きな意味があったように感じる。小規模の集団で長い間過ごしてきている生徒にとって、「誰でも」1番になれる可能性のある課題は少ない。Eにとっても国語の授業で褒められることは少なかったと思う。Eが活躍したことで、自分にもできる、次は頑張りたいという前向きな空気が教室に生まれた。